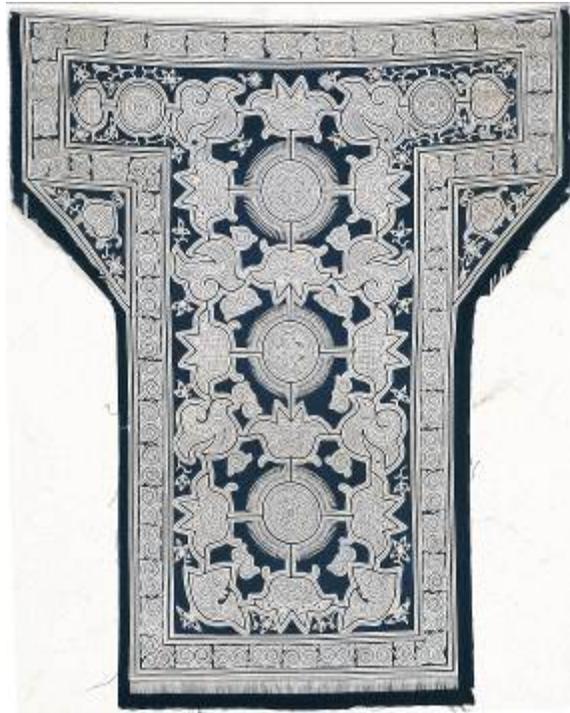


会館だより

2012年 2月号 第272号



財団法人日中友好会館

「会館だより」2月号の内容

行事案内

《日中友好会館美術館》

- ・日中友好会館主催展
「祈りと祝福の藍布
—中国貴州ろうけつ染め展」
- ・中国奥地の蘭展・難波清邱喜寿展
(協賛：書峰展)

《日中友好後楽会》

- ・2月談話会

活動記録

- ・諏訪市日中友好協会が後楽寮を見学
- ・小田原ホームステイ感想
- ・平成23年度中国青年メディア関係者代表団
第3陣が来日
- ・平成23年度日本高校生訪中代表団
第3陣が訪中
- ・2011 日本青少年訪中代表団第2陣
473名が訪中、各地で交流を行う
- ・第十六回中国教育関係者代表団が来日
- ・平成23年度中国高校生訪日団
第5陣が来日
- ・2011 日本教育関係者訪中団
(第十七回都道府県教育訪中団) を派遣

会館行事と人の動き

表紙

『太陽紋子守帯(部分)』 80×64 cm
(中国民間工芸「ろうけつ染め」貴州黄平)

催事の詳細は、本誌2ページの「行事案内」
をご覧ください。

行事案内

日中友好会館美術館

◆日中友好会館主催展

「祈りと祝福の藍布 —中国貴州ろうけつ染め展」



鳥龍銅鼓紋祭鼓幡 410×42cm 貴州榕江 ミャオ族

会 期: 好評開催中～2月22日(水)まで、
月曜休館

時 間: 10時～17時

入場料: 無 料

主 催: 日中友好会館、国立中国美術館

後 援: 中華人民共和国駐日本国大使館、(社)日中友好協会、日本国際貿易促進協会、

日本中国文化交流協会、日中友好議員連盟、(財)日中経済協会、(社)日中協会、日本華僑

華人聯合總會、東京中国文化センター



図柄を蜜蠟で布に描き、甕の中で染める様子

新春の主催催事として、中国貴州省の少数民族による、ろうけつ染めの作品を展示しております。ろうけつ染めは、絞り染めや藍染めと並び、中国無形文化遺産に登録されている民間工芸で、主に少数民族の女性が、昔ながらの技法を母から娘へ伝承してきたものです。彼女たちは布や染料の原料となる植物を自ら育て、糸を紡いで布を織り、蠟で絵を描き、藍色で染め、できた布で様々なものを作り、生活を彩ります。

今回は、祖先を祀る「祭鼓幡」と子孫を祝福する「子守帯こもりおび」を中心に、衣装や装飾品など、国立中国美術館の豊富な収蔵品から選りすぐりの約 60 点の作品をご紹介します。

ぜひお立ち寄りください。

【お問合せ】(財)日中友好会館 文化事業部

電 話: 03-3815-5085

e-mail: bunka@jafc.or.jp

◆「中国奥地の蘭展・難波清邱喜寿展
(協賛：書峰展)」

会期：2月28日(火)～3月4日(日)
時間：10：00～17：00(最終日は15：00まで)
入場料：無料 休館日：なし
主催：中国奥地の蘭協会 共催：書峰会

「中国奥地の蘭」は、日中国交正常化に尽力された故松村謙三先生が日中友好促進のために中国を訪問された折、当時の周恩来首相のご手配で中国各地を歴訪し、雲南省・四川省・貴州省から数種類の蘭を招来され、それを機縁に、日本で広く栽培されてきました。

第19回となる本蘭展では、中国産出の春蘭を約100鉢展示します。例年、書も併せて展示いたしますが、今回は書峰会のご協力により《難波清邱喜寿展・協賛書峰展》を同時に開催いたします。

会期中、出品蘭の解説、二胡の演奏(2月29日(水)12時15分からと14時から)を予定しています。なお、書道作品の鑑賞会を3月3日(土)の15時から予定しております。ぜひお楽しみくださいませ。

【お問合せ】 富永淳一、杉澤達也
電話：0474-26-8625 03-5421-3532

日中友好後楽会

◆2月談話会

定例の談話会を予定しております。詳細は別途ご案内申し上げます。

【申込み・問合せ】

後楽会事務局 小林陽子
電話：03-3811-5305
FAX：03-3811-5263

活動記録

◆諏訪市日中友好協会が後楽寮を見学



後楽寮玄関にて

12月7日、岩波修一理事長をはじめとする諏訪市日中友好協会24名が後楽寮を見学しました。

毎年夏には長野県日中友好協会主催のホームステイで後楽寮生を多数受け入れていただいております。諏訪市でも毎年寮生がお世話になっています。今回のメンバーには今年のホストファミリーの方やホームステイ歓迎会でお会いした方も来ており、久しぶりの再会にととても喜んでいました。

まず武田常務理事の歓迎の挨拶で一行をお出迎えした後、留学生事業部職員と後楽寮生で3組に分かれ後楽寮内を見学しました。居室やシャワー室、体育室などを見学し、屋上では小石川後楽園の紅葉をバックに記念撮影をしました。

そして後楽寮食堂で李潔瓊寮生委員のスライドによる寮生の活動紹介のあと、寮生達と昼食を共にし、最後は後楽寮玄関で寮生と一緒に集合写真を撮りました。

折しも日中友好会館美術館では「辛亥百年交流展」が開催されていたので展覧会もご覧いただきました。

ほぼ全員の方が初めて見学したとの事で、後楽寮の事をより一層理解していただき、親しみを持っていただけたと思います。今

後とも諏訪市日中友好協会にはホームステイの受け入れに協力していただきたいと願うばかりです。(留学生事業部)

◆小田原ホームステイ感想

2011年12月2日から4日まで、私たち(王国輝、馬隼、馮雲龍、田乃魯)4人は神奈川県小田原市の小嶋先生のお宅に滞在させていただき、日本の一般家庭の生活を体験することができました。短い3日間でしたが、ホームステイでの出来事は有意義でいい思い出になったことに4人とも変わりはありません。

2日の夕方に、鴨宮駅の改札口を出ようとしている時に、こちらへニコニコしたおじいさんは手を大きく振りながら、「ようこそいらっしゃい」とおっしゃいました。なんとなく暖かい感じが湧き出てきました。その後、小島ご夫妻と一緒に自宅へ向かう途中、色々な話が飛び出しました。先生の話によれば、それまでホストとして中国人留学生だけでのべ700人以上を迎えられてきたそうです。それは、日本の優れた歴史と文化の紹介を通して、外国の文化等も学び、お互いに理解し合い、それらを分かちあうためであります。「一件のよい事をするのがそんなに難しくないが、難しいのはそれを永遠に続けさせること」という言葉をふと思い出して、私たち4人は誠に感心いたしました。

そして、夕食の時間になりました。小嶋先生は私たちが来る前にすでにその材料を用意していらしたので、すぐに本番にはいりました。ご夫妻はすき焼きの材料や調理の仕方などを丁寧に教えてくださいました。そして熱烈な話もいっぱい飛び交いました。ご夫妻は学校の先生であったため、日本の学校の事情を詳しく紹介してくださいました。中には英語を交えた場面もありました。ご夫妻は学識や経験などが豊かでいい勉強になりました。

翌日の午前中、小田原にある尊徳記念館を見学しました。この記念館は、「おだわら21世紀プラン」の4大イベントの一つである「二宮尊徳生誕200年祭」の事業であり学習の場として、また広く社会教育の場として建設されたものです。偉大なる凡人と言われる尊徳が一生農村の土と心を開拓することにコツコツと働いたことに感心しました。そして、午後小田原城を見学しました。それは、戦国大名小田原北条氏の居城でもあり、関東支配の拠点として次第に拡張され、豊臣秀吉の小田原攻めに備えるためのものでありました。内部には、刀剣・絵図・古文書など、小田原の歴史を伝える資料や武家文化にかかわる資料などが展示されています。遊びながら歴史を学ぶことができ非常に楽しかったです。



小田原城にて(右端筆者)

夜、感謝の気持ちをもって私たち4人は小嶋夫妻の家族と一緒に餃子をつくることにしました。餃子を作りながらお孫さんとも話ができて、楽しい時間をすごしました。奥様は特別に天麩羅までつくってくれました。夕食後、奥様のご指導で、紙花の折り方を勉強しました。無駄な古新聞紙が、生き生きとした美しくて鮮やかな花に変

身しました。普段の生活の偉大さを再び感じました。

時間の経つのがとても早く、とうとう最後の日を迎えてしまいました。三日目の朝食後、ご夫婦と一緒ににおにぎりをつくり、富士山を眺望しました。前日少し雨が降ったためか、空はすっかり晴れていて真っ白な富士山を見ることができました。そして自宅の蜜柑畑に行って蜜柑狩りをしました。食べながら各自のお土産の分も頂きました。初めての体験でした。ご夫妻の暖かい心に改めて感心しました。蜜柑畑でご夫妻が特別に用意してくれた味噌汁やお漬物、そして自分たちで作ったおにぎりをいっぱい食べました。贅沢な思いを深く味わえたひと時でした。

まだ、ご夫婦と話したいことがいっぱいありましたが、別れる時間がきました。短い三日間でしたけれど、色々勉強になりました。特にご夫婦の留学生への思いやり、そして国際文化交流への熱情等は深く私たちの心の底に刻み込まれました。何か報いることができたらいいなと、私たちは心の中でずっとつぶやいていました。

中日両国間に不愉快な歴史を持っていましたが、両国の国民は世々代々の友好を楽しみにしております。小嶋夫婦は、700人以上の中国人留学生を受け入れることが、その証ではありませんか。確かに個人の力は微力ですが、個々人みんなにご小嶋夫婦のような熱情があったら、私たちの生活や世界は変わってくるのではないかと思います。中国人の自分自身としても、中日交際文化交流のために何かやろうかと考えております。国籍なく、地域なく、世界の人々の力をあわせて頑張ったら、戦争がなくなり、世界がもっと美しくなると信じております。あなたたちもこの輪に入ってみませんか。みなさん、一緒にがんばりましょう。

(後楽寮生 王国輝)

◆平成23年度中国青年メディア関係者代表团 第3陣が来日

「ネットメディア」、「ハイテク医療」を
テーマに活動



編集局を見学して熱心に質問
(第1分団・共同通信社)

2011年12月12日から12月18日の日程で、平成23年度中国青年メディア関係者代表团第3陣(团长＝劉更銀・國務院新聞弁公室人事局局長)が来日した。一行は、同弁公室の幹部4名及び、中央・地方の若手メディア関係者、メディア行政関係者60名からなる計64名で、新聞・テレビ・ラジオ・インターネットなど各分野の従事者が中国全土より集まり、多様性に富んだメンバー構成となった。訪日期間中、2グループに分かれ、「ネットメディア」、「ハイテク医療」をテーマとして、それぞれ視察や交流を行った。

本団招聘事業は、平成19年度より、外務省が推進している「21世紀東アジア青少年大交流計画(日中21世紀交流事業)」に、平成22年度より700名の交流拡大が決定され、そのうちの1分野として実施されたものである。今回で6回目の招聘となった。

12月13日夜には、代表団の訪日を歓迎するレセプションが行われ、中野讓・外務大臣政務官、鄧偉・中華人民共和国駐日本国大使館参事官兼大使館報道官、劉更銀团长

をはじめとする代表団団員、日本のメディア関係者などが出席した。



代表団の来日を歓迎する中野謙・外務大臣政務官
(歓迎レセプション)

都内でメディア交流を実施

12月13日には、全分団の共通プログラムとして、外務省を訪問し、濱田隆・同省アジア大洋州局日中経済室長による現在の日中経済関係についての講演を聞いた。また、同日午後には全分団でNHKを訪問、さらに、12月14日には、第1分団は共同通信社、第2分団は日本経済新聞社を訪れ、日本のメディア現場を視察した。団員からは多くの質問があり、関係者と活発に交流を図った。

東京・神奈川・兵庫にてテーマごとの活動に参加

「ネットメディア」をテーマとする第1分団は、15日にヤフー株式会社、16日に神奈川新聞社を訪問した。ヤフー株式会社では、主要コンテンツであるヤフーニュースや同社の子会社である株式会社GyaOのネット上での映像配信サービスなどについて説明を受けた。また、神奈川新聞社では、同社の運営する地域に根差した情報ウェブサイト「カナロコ」の取り組みやネットメディア事業における今後の展望について話を聞いたのち、編集局内を見学した。日本のネットメディアの現状や各メディアの取り組みについて、多面的に見聞を広め、日本と中国との相違点や参考にすべきところなど、見識を深めた。

「ハイテク医療」をテーマとする第2分団は、15日にテルモ株式会社、16日に神戸産業医療都市を訪問した。テルモ株式会社では、テルモプラネックスを視察し、最新の医療製品の展示説明を受けたほか、研修センターにてコンピューターシミュレーションによる呼吸器疾患の対処や心臓マッサージの訓練を体験した。さらに、将来に応用が広がると見られる内視鏡手術や家庭医療について詳細な説明を受けた。神戸産業医療都市では、同都市の概要説明のほか、同都市内にある先端医療センターおよび医療機器開発センターを視察、行政が主体となった医療の先進事例を実際に見聞きし、団員も高い関心を寄せた。日本の先進的な医療について、さまざまな角度から具体的に学ぶことができた。

その他、代表団は国会議事堂や防災施設の参観、都内や地方で自然・科学・歴史文化などに関する参観を通じ、包括的な日本への理解を深めた。

12月17日夜には大阪で、中華人民共和国駐大阪総領事館や関西での訪問先関係者を招いて歓送報告会を行った。感想発表では、代表の団員が日本滞在中の活動や体験を振り返りながら、今回の訪日の成果について熱く語った。会は大いに盛り上がり、皆で訪日活動の成功を祝った。

代表団一行は、7日間の日程を終え、12月18日に関西国際空港より帰国の途についた。本事業の実施にご協力頂いた外務省、中国大使館、受入関係機関等の皆様に厚く御礼申し上げたい。

(総合交流部)

◆平成23年度日本高校生訪中代表団 第3陣が訪中

北京・湖北省・山東省・上海で交流

平成23年度日本高校生代表団第3陣(総団長=脇坂晴久宮城県宮城野高等学校教頭、一行計156名)が、2011年12月6日から

12月12日の日程で訪中した。中国日本友好協会が受け入れを担当し、日本側派遣実施を財団が担当した。



日中高校生交歓会でパフォーマンスを披露(武漢市)

A コース(宮城県と東京都の高校生・引率61名)は北京市、湖北省(武漢市)、上海市を訪問し、北京市と武漢市にて学校交流、ホームステイを行った。B コース(岩手県、宮城県、福島県の高校生・引率95名)は北京市、山東省(濰坊市)、上海市を訪問し、北京市と濰坊市においてサッカー交流を行い、濰坊市でホームステイを行った。今回、財団法人日本サッカー協会の協力により、高校生訪中団では初めてサッカー交流を行った。学校交流やホームステイ以外にも万里の長城、故宮博物院等の歴史遺跡の見学を行い、参加した高校生は、交流を通じて現地の高校生らと親睦を深めるとともに、悠久の歴史と経済発展著しい現在の中国への理解を深めた。

本代表団は12月6日に北京より入国。7日は午前中に万里の長城を見学。午後から学校交流を行った。A コースは北京市第十九中学を訪問し、数グループに分かれて授業に参加。英語や筆談も交え、交流を行った。B コースは北京市八一中学と北京市回民中学に分かれて訪問し、各校で日中の高校生の混成チームによるサッカー交流を行い、寒さも忘れる熱いプレーに惜しみない拍手が送られた。同日夜は中国日本友好協会主催の歓迎宴に出席した。

12月8日以降は2コースに分かれて交流を行った。A コースは8日に天安門広場、

故宮博物院、オリンピックスタジアムを見学した後、湖北省武漢市へ移動。9日は午前中に黄鶴楼と東湖を見学。午後には宮城県高校生は华中科技大学附属中学を、東京都高校生は洪山高級中学を訪問した。訪中団は両校で熱烈歓迎を受け、ホスト生徒とともに英語や物理の授業の見学、太極拳体験など、多彩なプログラムに参加した。交流終了後はホスト生徒と一緒にホームステイ先へと向かった。10日は午後から日中高校生交歓会が催され、日本高校生、中国高校生とホストファミリーが参加した。ゲームやホームステイの感想発表、日本との交流活動の報告など多彩なプログラムで盛り上がり、文化や言葉の壁も感じさせないすばらしい内容となった。11日朝に生徒は学校に集合し、ホストファミリーとお別れをした。2日間という短い宿泊であったが、涙を流して別れを惜しむ姿が多く見られ、充実した交流だったことがうかがえた。

B コースは9日に山東省濰坊市へ移動。10日午前中に魯能泰山サッカー学校にてサッカー交流を行った。魯能泰山サッカー学校はサッカーの強豪校として全国的に有名で、選手のレベルも高く、非常に内容の濃い交流となった。午後には濰坊市第一中学を訪問し、ホスト生徒と対面式を行った後、ホームステイを体験した。各家庭で熱烈歓迎を受けた生徒は11日午前中にホストファミリーと一緒に学校に集合し、日中交流会に参加した。その後、キャンパスツアー、学食での交流昼食会を行った後、ホストファミリーとお別れをした。11日午後には、両コースとも上海へ移動し、全団がそろって歓送会に出席した。



試合後、お互いの健闘を称えサインボールを交換
(北京市八一中学)

12月12日、全日程を終了し、一行は無事に帰国の途に就いた。訪中に参加した高校生からは、「サッカー交流は最初こそ緊張したが、意思を伝わせ楽しくプレーすることができた」、「ホストファミリーに温かく受け入れてもらって感動した」、「万里の長城は予想より大きく圧倒された」、などの感想が聞かれた。

最後に、今回の訪中にあたり、ご指導ご協力いただいた関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

(総合交流部)

◆2011日本青少年訪中代表団第2陣 473名が訪中、各地で交流を行う



北京歓迎レセプションで挨拶する江田総団長

2011日本青少年訪中代表団第2陣(総団長＝江田五月 財団法人日中友好会館会長、参議院議員)が2011年11月23日から29日の日程で訪中した。中国側は中華全国青年連合会が受け入れを担当し、当財団が派遣実施を担当した。代表団は経済、友好団体、学術研究者、クールジャパン、環境・省エネ、大学生の青年と6都府県の高校生で構成された473名で、北京のほか福建省、雲南省、広東省、江西省、山東省、上海市を訪問した。

北京では24日、天安門広場、故宮博物院を見学した後、中国武術を体験、同日夜に

は国際飯店で開催された歓迎レセプションに参加した。レセプションで盧雍政・中華全国青年連合会副主席は「4年にわたる日中青少年交流の最終年となったが、来年の日中国交正常化40周年に向け、交流をさらに進めていきたい」と挨拶、江田総団長は「東日本大震災の際の中国からの温かな支援に深く感謝する。団員のみなさんは各地で感謝を伝えつつ、交流してほしい」と期待を述べた。後半では日中双方の出し物があり、日本側は大学生分団が「上を向いて歩こう」を合唱、岩手県高校生が元気よく「よさこいソーラン」を披露し、中国側は民族楽器の演奏や舞踏で会場を盛り上げた。25日からは4コースに分かれて中国各地を訪問し、中国青少年と交流を行った。

Aコース(経済、友好団体)

【北京－福建省(福州)－広州コース】

経済分団65名、友好団体分団29名、計94名は福州、広州を訪問した。北京で、経済分団は国家発展研究基金会で中国経済に関する講演を聞き、友好団体分団は共青团中央委員会幹部と懇談した。福州で、経済分団は福建省青年企業家と座談交流を行い、友好団体分団は、福建省鼓樓青少年校外体育活動センターと福建省対外友好協会を訪問した。また、コース全体で曇石山文化遺跡博物館、西禅寺などを参観し福建の伝統や歴史に触れ、茶芸鑑賞を通じ中国の喫茶文化を体験した。そのほか、コミュニティーを訪問し、一般市民の日常生活を垣間見ることができた。

広州では、経済分団は広州珠江ビール集団有限公司を訪問、広大な生産工場見学を通じ、中国マーケットの大きさを感じた。友好団体分団は南方医科大学を訪問、整備された学内施設や真剣に学習する大学生の姿を目にした。地域伝来の「針灸療法」について説明を受け、学部生による診療も各々体験した。

Bコース(学術研究者、クールジャパン、

環境・省エネ、大学生)

【北京－雲南省（昆明）－広州コース】

学術研究者分団 32 名、クールジャパン分団 32 名、環境・省エネ分団 33 名、大学生分団 28 名、合計 125 名は昆明、広州を訪問した。北京で大学生分団は中日青年就業創業座談会に参加。学術研究者分団は中日友好医院を、クールジャパン分団は北京服装学院を、環境・省エネ分団は中日友好環境保護センターを訪問し、施設の参観や意見交換を行った。次に昆明へ移動し、学術研究者分団は昆陽古城村衛生所と昆明医学院を、クールジャパン分団は雲南芸術学院を、環境・省エネ分団は昆明市環境保護局及び呈貢行政センターを、大学生分団は雲南大学を訪問し、交流を行った。昆明では少数民族の文化や生活に触れる機会があり、中国の多民族性を理解することができた。最後に広州へ移動し、学術研究者分団は南方医科大学を、クールジャパン分団は広東奥飛アニメ文化股份有限公司を、環境・省エネ分団は広東華南農業大学を、大学生分団は広東外語外貿大学を訪問した。質疑応答の場面では時間をオーバーするほど質問が出て、関心の高さがうかがえた。

最終日の夜には A・B コース合同の歓送会が催され、日中双方が歌や手品等のパフォーマンスを披露して、賑やかな雰囲気の中、別れを惜しんだ。



広東奥飛アニメ文化股份有限公司を訪問
(クールジャパン分団)

Cコース（千葉県・茨城県・東京都高校生）

【北京－江西省（南昌）－上海コース】

3 都県（千葉県 41 名・茨城県 42 名・東京都 42 名）の高校生一行 125 名は、北京・南昌・上海を訪問した。

南昌では南昌市第五中学を訪れ、整列した教職員や生徒達から盛大な歓迎を受けた。歓迎セレモニーに続いて、英語、中国結び、太極拳の 3 グループに分かれて授業を体験した後、同校生徒の家でホームビジットを行った。わずか半日の交流だったが、日中高校生達は旧友同士のように仲良く集合場所に現れ、いつまでも名残惜しそうに話し込む姿があちこちで見られた。南昌滞在中は大学生ボランティアが同行して積極的に日本高校生に話しかけ、彼らとの交流が中国の若者の現状理解に大いに役立った。また、上海では外国人学生が多く学ぶ国際科を持つ上海中学を訪問し、キャンパスツアーや教師との交流を行い、学食を体験した。

この他、千葉県・茨城県の高校生は南昌で滕王閣、上海で上海博物館を見学し、東京都高校生は北京で都市計画展覽館と天壇公園、南昌で科学技術館を見学した。上海では雑技の鑑賞もあり、日本高校生は中国の文化や歴史、科学技術に関する見聞を深めることができた。

歓送会では、日本高校生が空手や合唱等のパフォーマンスを披露し、中国側の受け入れに対して精一杯の感謝の気持ちを表した。中国高校生からも笛の演奏や独唱が披露され、互いのパフォーマンスに大きな拍手を送り合った。

Dコース（兵庫県・岩手県・大阪府高校生）

【北京－山東省

（済南・煙台・青島・曲阜）コース】

兵庫県 41 名、岩手県 42 名、大阪府 40 名の高校生一行 123 名は、山東省済南を訪問した後、兵庫県は煙台、岩手県は青島、大阪府は曲阜と、3 都市に分かれて交流を行った。

済南では、済南市外国語学校を訪問。キャンパスツアーや同校生徒によるパフォーマンスの後、グループ交流を行った。交流した学生はみな日本語学習者で、すべて日本語で意思疎通を図った。自己紹介をしたり、趣味の話をしたり、なかには日本のトランプを持ち出しているグループもあり、終始和やかな雰囲気での交流することができた。その後、午後から夕食にかけて、ホームビジットを行った。ホームビジットでは、中国人学生と共に街歩きをしたり、家庭と一緒に餃子作りをしたりと思い思いに過ごし、ビジット先の家族に見送られながら帰ってきた日本高校生達は、みな明るく高揚した表情であった。

一行はまた、済南市青少年宮を訪問し、小学生と一緒に切り絵やゲームをしたり、水墨画や陶芸の作品を見たりした。

済南訪問後は、それぞれ煙台、青島、曲阜に分かれて学校交流を1回行うと共に、各地の参観等を行った。兵庫県分団は、煙台市第二中学、魯東大学、煙台農業博覧園などを訪問。岩手県分団は、青島市第二中学、青島国際ゲームアニメ産業園などを訪問。大阪府分団は、曲阜市第一中学と孔廟、孔府、孔林を訪問し、儒家思想講座を受けた。

歓送会は、それぞれ各地で催され、日本高校生達は用意していたパフォーマンスを披露した。閉会時にはすっかり仲良くなったボランティアの大学生と写真を撮ったり、連絡先を交換したりする姿があちこちで見られ、みな別れを惜しんでいた。

一行は11月29日に中国各地から帰国した。団員からは「各訪問先で温かく迎えられ感激した」、「中国青年の生の声を聴くことができ、中国への関心が高まった」「新しくできた中国の友達と今後も交流を続けていきたい」といった声が聞かれ、大きな成果を得ることができた。

今回の訪中にあたりご尽力いただいた外務省、中華全国青年連合会、各都府県教育

委員会・庁ほか関係機関の皆様に厚くお礼申し上げたい。

(総合交流部)

◆第十六回中国教育関係者代表団が来日 東京・京都・大阪で学校現場を視察、 教育関係者と交流



中野譲外務大臣政務官(右)に訪日の期待を語る
王占起団長(左)

当財団は、外務省の委託を受け、日中相互理解増進事業として、平成8年度(96年)より毎年、中国の小・中・高等学校の教員並びに教育関係者の招聘事業である「中国教育関係者代表団」を実施している。

今回で16回目を迎え、同代表団一行30名(団長：王占起 中国日本友好協会 政治交流部部長)が、2011年11月15日(火)から11月22日(火)までの日程で来日した。団員は中国日本友好協会が組織し、北京市、山東省、黒龍江省、吉林省、湖北省、四川省の1市5省の教育現場の最前線で活躍する小・中学校、高校の校長や副校長、教員で構成された。

代表団は東京、京都、大阪を訪問し、小学校、高校、中高一貫校、大学、そして教育委員会への訪問や文部科学省グリーンフロンティアへの参加を通して、日本の教育事情についての理解と知識を深めると共に、教師や教育関係者、生徒たちと交流し友好を深めることができた。各訪問先では懇談の機会を得、日中の教育関係者がそれぞれの教育実践の現状や課題について、活発な意見

交換を行った。

来日当日は、歓迎レセプションに参加。遠山茂 外務省アジア大洋州局中国・モンゴル課地域調整官、李春生 中華人民共和国駐日本国大使館一等書記官ほか、訪問先関係者が出席し、賑やかに行われた。16日には代表者が中野譲 外務大臣政務官を表敬訪問、また、全員で文部科学省を訪問し、池原充洋 大臣官房国際課長から、「教育交流に大きな成果を期待する」と挨拶があった。また、「教育委員会制度、学習指導要領、教員研修制度・教員免許更新制」をテーマとしたブリーフィングに参加し、日本と中国の教育制度の違いを理解することができた。

日本の教育現場を訪問、教員や生徒たちと意見交換

来日の最大の目的である教育現場の視察としては、東京3校（千代田区立和泉小学校、千代田区立九段中等教育学校、武蔵高等学校中学校）、京都1校（京都大学）、大阪1校（大阪府立北野高等学校）の計5校の教育機関を訪問。それぞれ学校紹介を受け、授業や施設を見学した。千代田区立九段中等教育学校と武蔵高等学校中学校は中高一貫校であり、代表団は公立と私立、2つの中高一貫校の訪問を通じ、特徴ある教育理念や中高一貫ならではの教育制度について理解を深めた。千代田区立和泉小学校ではビッグバンドクラブの演奏で迎えられ、学芸会の練習を見学しながら児童と交流したり、給食体験をしたりし、充実した訪問となった。また、大阪では府内トップクラスの進学校である府立北野高等学校を訪問し、校内を見学した後、中国人生徒2名を含む7名の生徒と交流した。団員から生徒に、なぜ今の段階で明確に将来像を描けるのか、中国が日本の学校教育に学ぶべき点はどこだと思うか、など、さまざまな質問が出され、あっという間に3時間の訪問時間が終了した。

京都大学では大学概要の紹介を受けた後、京都大学百周年時計台記念館の免震装置と

資料館を見学した。中国でも地震に対する関心が高まっており、団員は免震装置の実物を見ながら、材質や特許などについて熱心に質問した。

大阪府教育委員会との懇談会では、大阪府の教育の概要が紹介された後、意見交換が行われた。大阪府教育委員会からは高等学校課、小中学校課、教育総務企画課など、さまざまなセクションから出席があり、団員からの「教員に対する定期的な勤務評価はどのように行われているか」、「企業や商店に赴くキャリア教育の目指すものは何か」、「小学校教員はどのような基準で採用されるか」といった質問に丁寧に回答され、団員にとって大きな収穫があった。



日本の給食を体験する団員たち
(於:千代田区立和泉小学校)

また、滞在中には阿倍野防災センター、金閣寺、大阪城、パナソニックセンター、西陣織など、日本の歴史、経済、防災、科学技術、文化に関する参観・体験を行い、幅広く日本を理解する機会を得ることができた。21日に行われた歓送報告会には、袁自煌 中華人民共和国駐大阪総領事館教育室長や大阪府教育委員会関係者、また、2011年9月に日本教育関係者訪中団に参加した関西地区の教育関係者も参加し、アットホームな雰囲気の中で訪日を締めくくった。各テーブルでは今回の訪問先での多彩なプログラムや、日本の教育関係者や生徒・児童と交流した感想が語られた。また、日本で見たこと、学んだこと、体験したことを

帰国後に自分の同僚や生徒に伝えると話す団員が多かった。

代表団はすべての交流プログラムを終了し、11月22日に関西国際空港より帰国の途に就いた。当事業の実施にご協力いただいた外務省、文部科学省、東京都教育庁、大阪府教育委員会並びに受入関係機関、学校関係者の皆さまに厚く御礼申し上げたい。

当財団は今後とも、教育関係者の交流と青少年交流を両輪と考え、双方の交流内容の充実が図れるよう、努力していく所存である。
(総合交流部)

◆平成23年度中国高校生訪日団 第5陣が来日

埼玉、神奈川、愛知、京都、兵庫で交流

「21世紀東アジア青少年大交流計画(日中21世紀交流事業)」の一環として、11月8日より16日まで、平成23年度中国高校生訪日団第5陣(馮剛総団長、呉述綱副団長、一行総勢396名)が来日した。同団は北京市、河北省、遼寧省、上海市、江蘇省、安徽省、貴州省、重慶市、陝西省の3市6省から選抜されたメンバーで、Aコース195名を当財団が、Bコース201名を社団法人青年海外協力協会が担当し、各地で交流を行った。

同団Aコースは11月8日に成田から入国し、8泊9日の日程をスタートさせた。翌9日に外務省を訪問し、セミナーを受講、その後歓迎レセプションに出席した。



言葉でロボットに動きを指示する高橋智隆先生

セミナーでは、昨今デザイン性の高い2足歩行ロボットを製作し注目を集めている、高橋智隆 東京大学先端科学技術研究センター特任准教授による「ロボット時代の創造」をテーマとした講演を聞いた。目の前で愛らしい動きをするロボットのデモンストラーションには会場から歓声が沸き、中国高校生たちはロボットが将来人間の暮らしの中でどのような役割を担うようになるのか、目を輝かせて聞き入っていた。

続く歓迎レセプションはA、B両コース合同で行い、齋木尚子外務省広報文化交流部参事官、李春生中国大使館教育部一等書記官ら来賓を含め、総勢500名近くが一堂に会する盛大な会となった。齋木尚子参事官からは、「復興に向かって歩み始めたこの時期に、お迎えできて本当にうれしい。この機会を通して、力強く復興していく日本を直接見て、感じてほしい。みなさんを通じて中国のみなさんが、復興していく日本への理解が深まることを期待している」と述べた。両国高校生によるパフォーマンスでは、2008年に中国北京市で行われた「2008日中青少年友好交流年」の開幕式典でも演奏経験のある東京都立深沢高等学校和太鼓部が、日本でもトップレベルの迫力あるパフォーマンスを披露した。また中国側は遼寧省瀋陽第三十一中学の高校生が民族舞踊を、陝西省の代表生徒が舞踊と書道を披露し、会場から大きな拍手が送られた。

充実した学校交流とホームステイ

11日からは4コースに分かれて各地を訪問した。各自治体及び教育委員会、受け入れ校の協力を得て、埼玉、神奈川、愛知、京都、兵庫において学校交流やホームステイを実施した。

学校交流では、英語や数学、書道、音楽などの授業に参加したほか、着物の着付けを体験したり、日中混合チームでスポーツを楽しんだり、お互いの文化や習慣の違いを話し合うなど、さまざまなプログラムに

参加して、同世代の日本高校生との親睦を深めた。

今回訪問した学校には、これまで本交流計画の派遣事業で訪中したり、あるいは学校の海外研修プログラムに参加経験のある日本高校生も多く、プログラムのさまざまな場面で積極的に中国高校生に話しかけ、中国高校生たちもとても親しみを持って接していた。初めて中国高校生たちと触れ合う日本高校生たちも、中国高校生たちの普段の学習時間の長さや宿題の多さに驚嘆したり、好きなアニメや音楽といった共通点を見つけて盛り上がったり、英語や身ぶり手ぶり、筆談に加え、“笑顔”の共通言語を駆使し、どの学校も楽しく充実した時間を過ごした。

ホームステイでは、日本の友人、お父さん、お母さんたちに家族のように温かく迎えられる、いっしょに鍋料理やたこ焼き作り、バーベキューを楽しんだり、ドライブやショッピングに出かけるなど、それぞれの家族団らんを満喫していた。1泊または2泊という短い時間ではあったが、別れの場面では、涙を浮かべながら抱き合っただけで別れを惜しみ、日本語で何度も「ありがとう」と心からの感謝の気持ちを伝える中国高校生もいた。

ホストファミリーとなった日本の高校生は、「こんなに近い中国のことでさえ、私は何も知らないのだとわかった。文化やその意味を知らないと、相手の行動を不審に思ったり誤解したりするので、他国について知ることはとても大切で自分の文化を伝えることも大切だと思った」、「多くの中国人が日本を嫌っていて、敵対心を持っていると思っている人が多いが、それは明らかに間違いだと彼との会話で確信した」、「たった1泊だけとは思えないほどの、友情が芽生えた。何かが繋がっている気持ちになれて、本当に嬉しかった」などと話していた。身を持って、日中青少年交流の意義や草の根交流の重要性を理解してもらえたプログラムとなった。

そのほか一行は、世界遺産の金閣寺や清水寺をはじめ、浅草、琵琶湖、大阪城など各地の名所旧跡や自然景勝地を参観したほか、和箸作り、友禅染めなどの体験を通し、日本の伝統文化の一端に触れた。また環境・防災学習として、東京の消防博物館、有明水再生センター、兵庫のひと防災未来センター、愛知の名古屋南陽工場を参観した。



金閣寺を背景に記念撮影

全ての交流プログラムを終了し、Aコース195名は多くの思い出を胸に、11月16日に関西空港より帰国の途に着いた。本事業の実施にご協力頂いた外務省、文部科学省、中国大使館、各自治体・教育庁・教育委員会、学校関係者、受入関係機関等の皆様に厚く御礼申し上げたい。(総合交流部)

◆2011日本教育関係者訪中団 (第十七回都道府県教育訪中団)を派遣 北京・西安・上海を訪問

2011日本教育関係者訪中団(第十七回都道府県教育訪中団)が、2011年9月17日(土)から24日(土)の日程で訪中した。同団は、服部和也団長(岐阜県教育委員会教職員課課長補佐)をはじめ、全国1都2府15県から推薦された教育行政関係者及び教員の24名で構成された。本事業は、当財団が外務省の委託を受け、日中相互理解増進事業として平成9年度(1997年度)より実施しており、中国側は中国日本友好協会が受け入れを担当した。

訪中団は、北京市、陝西省(西安)、上海

市の3つの地域を訪問し、中国教育部表敬訪問や陝西省教育庁との懇談のほか、小・中学校、高校、盲啞学校及び大学を訪問し、中国の教育事情についての理解と知識を深めるとともに、中国の教育関係者と忌憚のない意見交換を行い、友好を深めた。

北京での中国教育部表敬では、王定華基礎教育司副司長から中国の義務教育や就学前教育及び特殊教育などについて説明を受けた後、日中の教育事情について活発な意見交換を行った。また、北京市第十九中学では、最新の設備を備えた心理教育センター等を参観し、日中教師懇談会では現場の教師同士互いの悩みを打ち明けあった。校外教育施設である東城区少年宮では、書道や絵画、楽器演奏の練習に励む児童と交流し、熱心に学ぶ姿に感心した。

18日の夜には、中国日本友好協会主催の歓迎宴が開かれ、井頓泉副会長から「8日間の滞在中で中国の発展を肌で感じ、教育現状を理解し、新時代における教育の在り方を中国の教育関係者と検討していただきたい」と歓迎の挨拶があった。



井頓泉中国日本友好協会副会長（右）へ
服部団長（左）より記念品贈呈

20日には、陝西省西安に移動した。陝西省教育庁との懇談で省内の教育事情について理解を深めた後、長安大学では、学生の管理や学生生活、就職状況等について説明を受け、橋梁の実験室等広いキャンパスを見学した。22日は西安市郊外にある戸県を訪れ、同県の教育状況について教育局担当

者より説明を受けるとともに、祖庵小学校と北関中学で交流を行った。祖庵小学校では児童と一緒に卓球をしたり休み時間のクラス活動に飛び入り参加したりした。



休み時間のクラス活動に飛び入り参加
（陝西省：戸県祖庵小学校）

北関中学では体育、書道、数学、英語の授業を見学し、生徒から作品のプレゼントもあった。両校では教員同士の十分な交流時間が用意され、モデル校での教員の取り組み、担任教師と生徒とのコミュニケーション方法、成績不振生徒の指導法、体罰の有無など教育現場に密接した意見交換を行った。中には勤務校の児童からの質問を投げかける団員もいた。都市とは異なる農村部での教育の環境や取り組みは団員にとって大いに参考となった。北関中学の教員から、3月の東日本大震災へのお見舞いが伝えられ、それに対して服部団長より自身の被災地訪問体験が披露される場面もあった。また、西安市盲啞学校では、生徒達の素晴らしい打楽器演奏のパフォーマンスに出迎えられ、生徒によるマッサージを体験したり、生徒が作ったケーキやお菓子を味わった。中国の特殊教育を知る貴重な機会のため、団員からの質問は後を絶たなかった。

このほか、中国滞在中、北京では万里の長城及び故宫博物院、西安市では兵馬俑博物館や明代の城壁、青龍寺等を参観し、帰国前日の上海では外灘（バンド）の夜景を見学して、悠久の歴史とともに発展著しい中国の現在を体感することができた。

訪中団は9月24日に全てのプログラムを

終え帰国した。当事業の実施にご協力いただいた外務省、文部科学省、中国日本友好協会ほか、関係機関の皆様方に厚くお礼申し上げます。
(総合交流部)

会館行事と人の動き 12/1～31 (2011年)

● 会館行事

- 12/ 2～12/ 4 ▶ 小田原ホームステイ
- 12/ 3 ▶ 留日学人活動站2011年総会 (於：北京)
- 12/ 6 ▶ 辛亥革命100周年記念・中国油絵日本交流展 開幕式、訪日団歓迎宴
- 12/ 6～12/12 ▶ 日本高校生訪中代表团第3陣 訪中
- 12/ 7 ▶ 諏訪市日中友好協会来館、後楽寮見学
- 12/ 8 ▶ 新入寮生懇談会
- 12/12～12/18 ▶ 中国青年メディア関係者代表团第3陣 来日
(12/13同団歓迎レセプション、12/17歓送報告会)
- 12/13～12/21 ▶ 香港・澳門高校生訪日団 来日 (12/14同団歓迎レセプション、12/20歓送報告会)
- 12/19 ▶ 後楽会中国旅行写真交換会 (於：小石川後樂園涵徳亭)
- 12/19～12/25 ▶ 2011日本青年メディア関係者訪中団 訪中

● 来館・訪問・面会

- 12/ 6 ▶ 中日友好協会との昼食 (武田常務理事)
- 12/ 9 ▶ 國學院大学国際交流課 石山氏来館 (留学生事業部)
- 12/14 ▶ 中国大使館政治部との会食 (武田常務理事、王理事、小島事務局長)
▶ 秦西平少林寺気功協会理事長来館 (村上理事長)
- 12/15 ▶ 海南大学李小北教授来館 (村上理事長)
▶ 石塚孝長崎県副知事来館 (王理事)
- 12/16 ▶ 中国社会科学院日本研究所孫新党書記との
日中歴史研究成果総括方法の打ち合わせ (村上理事長)
▶ 陳学全参与、楓林安田真子社長ほか来館 (村上理事長)
- 12/21 ▶ 後楽会 (中国) 秘書長李沢博士来館 (村上理事長他)
▶ 安藤 (岸) 陽子早稲田大学名誉教授訪問、岸関子奨学金運営に関する打ち合わせ
(村上理事長、入江常勤参与)
- 12/27 ▶ 中国大使館文化処との会食 (村上理事長、王理事他)

● 行事参加、その他の活動

- 12/ 2 ▶ 中国新水墨画 東京特別展 (於：東京中国文化センター、村上理事長)
- 12/ 5 ▶ 東京求真会 (村上理事長)
- 12/ 9 ▶ 日中医学交流センター 祝賀会 (武田常務理事)
- 12/16 ▶ 中国歴史文化名街展開幕式 (於：東京中国文化センター、村上理事長)